



徳川美術館 名品コレクション展示室

令和7年1月4日(土)～3月23日(日)

展示期間 A:1/4(土)～1/28(火) B:1/29(水)～2/26(水) C:2/27(木)～3/23(日)

大名の室礼 — 書院飾り —

大名の公式行事は、表御殿の「書院」あるいは「広間」で行われた。御殿の各部屋に設けられた飾り付け専用の空間—床の間・違棚・書院床—には、武家の故実によって各種の道具が飾られた。殿中の飾り付けや典礼を「室礼」といい、江戸幕府はその手本を室町幕府の故実にもとめたので、足利将軍家が秘蔵していた「東山御物」を第一に、唐物と呼ばれる中国製の品々を中心とした飾り付け法が規式とされた。

多くの書画や工芸品の産地が中国であっても、それらを飾り道具に採りあげ、とりどりに組み合わせ、調和の美を創り出したのは室町の武家社会であり、その美意識や価値観は、そのまま江戸時代の大名家に伝えられた。

No.	名 称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
広間					
押板飾り					
1	布袋・花鳥図 三幅対	狩野元信・伝正信筆 土屋家伝来	室町—江戸	16-17	A
2	竹に鶴図 三幅対	徳川家治(10代将軍)筆	江戸	18	B
3	福祿寿・猫・鹿図 三幅対	伝狩野探幽筆	江戸	17	C
4	青磁燭台		明	16	
5	青磁菊花文三ツ足香炉		元	14	
6	青磁竹節文中蕪形花生		南宋—元	13-14	
7	堆朱松下人物図香合		明	16-17	A
8	堆朱椿文香合 彫銘「張成造」		明	16	B C
9	火道具		江戸	18	
10	古銅饕餮文分銅形花生 一对		明	15-16	
違棚飾り					
11	古銅鶏香炉		江戸	17-18	
12	堆朱牡丹尾長鳥文香箱		明	15	A
13	堆朱花鳥文沈箱		明	15-16	B C
14	青磁文字文塵壺		元—明	14	
書院床飾り					
15	彫彩漆梅図軸盆		明	16-17	A
16	牡丹菊椿文堆朱軸台		明	16	B C
17	古銅雨龍形筆架	徳川家康・徳川義直(尾張家初代)所用	元	14	
18	雨龍透彫刀子 銘 康継作之		江戸	17	A
19	忍草蒔絵刀子		江戸	17	B C
20	龍文箔絵軸筆 銘 大明万暦年製	徳川義直(尾張家初代)所用	明	16-17	A
21	紅花緑葉梅花文軸筆		明	16	B C
22	金銅向机人物形文鎮	徳川光友(尾張家2代)所用	明	16-17	
23	古銅鴛鴦形水滴		明	16-17	
24	端溪臥牛硯		北宋	12-13	
25	染付高士観月図硯屏		明	16-17	
26	紫石卦算 二対の内		江戸	19	
27	堆朱騎馬人物図印籠		江戸	19	
28	古銅鳳凰注口仙蓋瓶		明	15-16	

No.	名 称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
鎖の間					
上段の間					
1	渭原円硯		高麗	13-14	
2	鉄切合風炉・釜 辻與次郎作		桃山	16	
3	唐銅花鳥文鍍金水指		明	14-15	
4	砂張砧形杓立		南宋	12-13	
5	唐銅銀象嵌建水		江戸	18	
6	唐銅穗屋香炉蓋置		江戸	18	
次の間					
7	一行書「山呼萬歳声」	徳川慶臧(尾張家13代)筆	江戸	弘化4年<1847>	A
8	一行書「春物自清美」	徳川義宜(尾張家16代)筆	明治	19	B
9	一行書「長松下當有清風」	徳川齊温(尾張家11代)筆	江戸	19	C
10	唐銅玉取獅子香炉		江戸	18-19	
11	亀甲口釜	大西浄寿(大西家11代)作	江戸	19	
12	唐物自在釜掛		明	16	
13	葵紋散蒔絵棗		江戸	18	A
14	堆朱樹下人物図中次		明	16	B C
15	熊川茶碗		朝鮮王朝	17	
16	薩摩太鼓形水指		江戸	18	
17	南蛮メ切建水		東南アジア	16-17	

【鎖の間】

天井から炉の上に鎖を吊って釜が掛けられるようにしてあったところからこの名がある。この部屋では四季を通じて釣釜がもちいられた。茶室と書院（広間）の中間に位置する座敷で、性格的には書院に属し、接待などに半ば公式的にわれた。